

1 経営の基盤

(1) 本校の実態と特色

- ・ 本校は明治7年に開校し、今年度で創立149周年を迎える歴史と伝統のある学校であり、現校舎は平成16年に落成する。平成17年3月には市町村合併により大仙市立四ツ屋小学校となる。
- ・ 諸教育研究会の公開や各団体の表彰も数多く、陸上・野球・ミニバスケットボール等の体育面や器楽部、図画工作・書写等での文化面の活躍もめざましい。
- ・ 平成4年に始まった「ゆりの木の集い」は児童・保護者・祖父母の三世代交流で、四ツ屋地区にまつわる活動を、地元公民館や地域住民の協力を得て行っている、本校の特色ある活動の一つである。
- ・ 平成13年4月に松倉小学校と統合し、新生四ツ屋小学校となる。旧松倉小学校区の児童は年間を通してタクシー通学、他の児童は徒歩で集団登校をしている。全校児童数は、松倉小学校と統合した平成13年度以降、190名前後で推移してきたが、昨年度は134名、今年度は122名と減少傾向にある。
- ・ 平成27年度からPTAによる朝のあいさつ運動が始まり、その翌年から地元公民館や防犯協会等の地域協力者も得て、月2回あいさつ運動を展開している。
- ・ 地元公民館や保育園と隣接しており、共催や交流を通して連携を図っている。
- ・ 大仙市学校教育目標の「生きる力を育み、社会を支える創造力あふれる人づくり」、大仙教育メソッドの「地域活性化に寄与できる子どもの育成」を目指し、大曲中学校区同一歩調で歩みを進めている。

(2) 地域の実態と願い

- ・ 本校は、大仙市役所から北東へ約5kmに位置し、近くには保育園や公民館、郵便局、JA四ツ屋が点在している四ツ屋地区の中心部にある。
- ・ 地域内は平坦な田園の続く市内有数の穀倉地帯である。近年は農業の多角化により、野菜や花卉等の生産が盛んであるが、専業農家は少なくなり、農外収入に頼る家庭が多くなってきている。また、地域内には国道105号線が通り、沿道には会社、工場、倉庫、コンビニ等の建物が建ち並び、学校周辺に新居を構える住民も多い。そのため、古くからの住民に加え、地域外から移転してきた新しい住民も増え、家庭環境や価値観の多様化が見える。
- ・ 地域住民は自分たちの住む地域愛が強く、保護者の学校教育活動やPTA活動などへの参加率も高い。地域をあげて、地域の中の本校への協力を惜しまず、愛着も深い。
- ・ 学校アンケート等によると、保護者や学校関係者の願いとして、「あいさつの励行」「学習意欲を高めること」「いじめの絶無」「交通安全」「メディアへの適切な対応」「感染症予防」等が挙げられている。

(3) 児童の実態

- ・ 児童の多くは、器楽部や男女ミニバス・野球スポ少のほかサッカー、バレーボール等のスポ少活動に所属しているが、所属に分散が見られ、児童の減少により活動に支障をきたしているスポ少も見られる。
- ・ 児童は四ツ屋まつりなどの地域行事に参加しているが、自分たちの住む地域や社会をよりよくしていきたいという意識までは高まっていない。
- ・ 児童は明るく元気で、目標に向かって前向きに生活している。また、学級・学校が一体となった活動や縦割り班活動には、協調し積極的に参加する児童が多い。反面、生活・学習規律の未定着な児童、周りの児童と良好な関係を築けない児童、自分に自信をもてず自己有用感の低い児童、メディア利用の長い児童が見られる。
- ・ 昨年度の県学習状況調査の県平均との比較では、現5年は国で7.7、算で8.7、理で4.1ポイント上回っている。現6年は社で5.3ポイント、国、算で1.2ポイント程度上回ったが、理で1.3ポイント下回った。今後も基礎・基本の定着を徹底しながら、課題解決型の実感を伴う授業展開と共通実践事項の徹底を図る必要がある。
- ・ 昨年度の新体力テストでは、どの学年においても県平均とほとんど同等の結果であり、特に課題は見られない。